

呼吸器・アレルギー学

【単位数：2単位，授業 26 コマ，予備 4 コマ(定期試験含まず)】

当該科目は医師としての臨床経験を持つ教員が担当する授業科目である。

1 科目責任者

伊藤 理 教授(呼吸器・アレルギー内科)

科目担当者

福井高幸 教授(呼吸器外科)

2 教育目標

(1) ねらい(Ⅲ-3-b, Ⅲ-4-b, Ⅲ-5-b)

- ① コンピテンスの「医学知識と科学的探究心」を修得するために、呼吸器疾患の病態，検査，診断，鑑別診断，治療を論理的思考に基づいて説明できる能力を養う。また，これらの学習過程において，自ら学修目標を設定し，継続的に学び，その成果・知識を他者と共有することを通じて，「プロフェッショナルリズム」の涵養を図る。

(2) 学修目標

- ① 肺，気道，縦隔，胸壁の構造を理解し，ガス交換の原理と呼吸機能検査の解釈を踏まえて，急性ないし慢性呼吸不全への対処法を説明できる。
- ② 一般細菌，抗酸菌，真菌，ウイルス等による呼吸器感染症の伝染様式を踏まえた予防法，病像と診断法及び治療薬について説明できる。
- ③ 気管支喘息，慢性閉塞性肺疾患，気管支拡張症の病態，診断法及び治療法について説明できる。
- ④ 特発性間質性肺炎や膠原病，血管炎，薬剤や放射線などによる間質性肺炎の病理像と特徴的病態，画像所見を知り，治療法について説明できる。
- ⑤ サルコイドーシスや過敏性肺炎など肉芽腫性肺疾患の病態や画像所見の特徴を知り，診断と治療法を説明できる。
- ⑥ 肺癌など呼吸器系腫瘍の発生要因，疫学，画像所見，病期判定法などを知り，診断法と肺癌遺伝子変異等に基づいた適切な抗癌剤及び免疫チェックポイント阻害薬の選択や，外科療法，放射線療法の適応基準を説明できる。さらにそれぞれの治療法の成績・予後についても説明できる。
- ⑦ 胸膜，縦隔の腫瘍性及び非腫瘍性疾患の発生要因や，画像所見と診断法及び抗癌剤の選択や外科療法の概略を説明できる。
- ⑧ 膿胸や菌球症など感染性肺疾患の外科療法の適応について説明できる。
- ⑨ 肺循環の仕組みを理解し，肺高血圧や血栓，腫瘍による塞栓症の発症病態と画像所見及び治療法を説明できる。
- ⑩ 塵肺や石綿肺の疫学，病態，画像所見を知り，予防法と合併症治療法及び関連補償制度の概略を説明できる。
- ⑪ 肺胞蛋白症やリンパ脈管筋腫症など，希少肺疾患の病態について概略を説明できる。

3 成績の判定・評価

(1) 総合成績の対象と算出法

	成績対象	割合	コメント
定期試験	○	90%	呼吸器・アレルギー内科と呼吸器外科合同の試験とする。医師国家試験に準じた多肢選択問題。
小テスト・レポート	○	10%	講義に関する小テスト・レポートを行う。
態度	○	—	態度不良の場合は、総合成績から10点を限度に減点をする。

出席：定期試験を受験するためには欠席率が3分の1を超えてはならない。

(2) 合格基準

評価対象の合計が60%以上(又は60点以上)で合格とする。

(3) 再試験・再評価の方法

定期試験、小テストの合計が60%未満の場合は、再試験を実施する。再試験は定期試験に準ずる方法で実施する(60%以上で合格)。

(4) 課題(試験やレポート)へのフィードバック

定期試験後、正解率が低い問題については簡単な解説をAIDLE-Kに掲載する。

4 教科書

書名	著者名	出版社	教科書として指定する理由
講義資料配付			

5 参考図書

書名	著者名	出版社	参考図書とする理由
呼吸器外科テキスト	日本呼吸器外科学会	南江堂	呼吸器外科全般について詳細に記載されている。
肺癌診療ガイドライン 2025年版	日本肺癌学会	オンライン版	肺癌の最新治療法が示されている。
喘息予防・管理ガイドライン 2024	日本アレルギー学会	協和企画	最新の診断・管理法が示されている。
成人肺炎診療ガイドライン 2024	日本呼吸器学会	メディカルレビュー	最新の診断・管理法が示されている。
COPD 診断と治療のためのガイドライン 2026	日本呼吸器学会	メディカルレビュー	最新の診断・治療法が示されている。
特発性間質性肺炎－診断と治療の手引き 2022(改定第4版)	日本呼吸器学会	南江堂	最新の診断・治療法が示されている。
膠原病に伴う間質性肺疾患－診断・治療指針 2025	日本呼吸器学会・日本リウマチ学会	メディカルレビュー	最新の診断・治療法が示されている。

6 準備学習(予習・復習)

本シラバスの講義予定に従い、内科・外科の教科書で各疾患の概略を予習しておくことが望ましい(1コマあたり0.5時間)。

特に各疾患の画像所見は意識して見ておくこと。復習は1コマあたり約0.5時間行うことが望ましい。

7 授業計画

(1) 講義の方法

基本的には講義形式で行うが、一部で提示画像の診断に関するALも実施する。

(2) 講義の内容

配付資料に従って講義を進める。呼吸器疾患に関して重要な生理学及び病理学については、再確認の意味で基礎医学の講義と一部重複する。講義は呼吸生理と呼吸器疾患を網羅する。